

## 文献翻訳

V. Matziou, RN, PhD, P. perdikaris, RN, Msc, PhD, K. Petsios, RN, MSc, PhD,  
E. Gymnopolou, RN, P. Galanis, RN, Msc, PhD & H. Brokalaki, RN, PHD  
Greek students' knowledge and sources of information regarding  
sex education

*International Nursing Review 56, 354-360 2009*

### ギリシャの学生の性（教育）に関する知識と情報源

榎村裕子

#### I. 文献選択理由

##### 1. 動機と課題意識と修論のテーマ

自身の修士論文のテーマは「看護大学のカリキュラムにおけるセクシュアル・ヘルスの位置づけに関する考察(仮)」である。看護学は基礎看護学・精神看護学・成人看護学・地域看護学・老年看護学・小児看護学・母性看護学の7領域で構成されているが、性に関する事項は主に母性看護学で扱われてきた。したがって、その内容は主に女性(母性)を対象として構成されていた。近年、男子学生が増加する中で、このような内容では不十分であり、男性のセクシュアル・ヘルスを対象とした内容への変更が求められている。そこで、修論では以下のような課題を明らかにしたいと考えている。

- ・看護教育のカリキュラムの実際と教科書および授業内容の実態把握。
- ・男子学生がどのように感じとっているかの現状把握。
- ・この問題に関する看護教員の意識調査と、課題の明確化。

##### 2. 本論文を取り上げた理由

私の研究テーマを追求するためには、前職の経験から、医療系の男子学生の性知識や性情報源の実態把握が必要であると感じていた。医療系の男子学生そのものだけを対象にしたものでなくとも、進学してくる前段階の男子高校生の性知識や性情報源でも参考となる。

本論文は、ギリシャの普通高校と医療系専門学校の男女生徒の性知識と情報源の量的調査を行っているものであるが、調査対象としては、重なるところがある。

また、非西欧、非北欧であるギリシャの性教育は日本と同じように、学校の教育課程に独立した科目としては存在せず、系統的な性教育が十分なされていないなど、類似している点がある。このことから、日本の男子学生の問題を考察する上でも、参考になる点が見られるであろう。さらに、調査方法は質問紙調査であるが、その手順や考察、結論の導き方も参考にできると考え、本論文を選択した。

#### II. 要旨

## 研究背景

人のセクシュアリティは人生の複雑な一面であり、多面的な現象と考えられる。

特に十代と青年のためにふさわしく包括的な性教育に対する必要性が増している。

## 研究目的

この研究の主な目的は、性的な生活、生殖に関する情報と生徒の情報源を確認することと、生徒の知識のレベルを評価することである。

## 対象と方法

独自に開発された自記式質問用紙を用いた横断的研究が実施された。この研究の対象はアッテカにある10校の高校と4つの医学校に通っている936人の生徒から構成される。データは、ギリシャ教育省の教授学研究所の許可を得た後で集められた。

## 知見

生徒の生殖についての主な性情報源は、友人 29.1%、両親 24.0%であった。一方、学校をあげたものは、彼らの 14.3%だけであった。生徒の認識によれば、好ましいと思われる情報源は性教育の専門家 65.6%、学校 39.1%、両親 32.2%、友人 27.7%であった。

## 結果

青少年の性生活を支える、学校や仲間や両親の重要性がこの研究で明らかにされた。性的話題に関する生徒の知識レベルは充分ではない。従ってギリシャの学校では性教育専門家、性教育独自の科目が必要である。

<キーワード> 青年・情報源・性教育・性的健康・生徒・予期しない妊娠

## Ⅲ.本文

### Ⅲ-1.序論

人のセクシュアリティは生命の複雑で、時々混乱する部分である。それは、学際的で全体的な現象であり、生物学的・心理的・社会的・認知的な学問に結びつく。セクシュアリティということばは、一般に、人間性の本質的な部分に及び、性やジェンダーの心理、性衝動や、両性的関係のあらゆる側面を含んでいる(Sharpe 2003)。

青年期は各人の身体的、心理的、社会的な成長の重要な変化によって、特徴づけられる時期である。それには、生殖組織の成熟、第二性徴の出現と性衝動の出現などが含まれる。若者は彼ら自身の体を知り、性に関して学び、性行動に対する価値観、道徳観を発展させる必要がある(Berger 2001)。今日、適切で包括的な性教育への必要性が高まっている。性教育とは各人の性的な生活や性衝動を反映するのはもちろん、個人の標準的な成長と成熟に焦点をあてる学習を通じて行われている、継続的な影響であると定義される(Kagavoulis 2001)。性教育の目的は若者が性的な生活に関する態度や考え方を選択できるようにすることである。学校での取り組みや性教育プ

プログラムを通じて青少年に正確で適切な情報を提供することは性的健康の改善を保障する基本的な土台となる(Allen 2001; Akker & Lees 2001)。

### Ⅲ-2.背景

この10年間、性教育は多くの研究者にとっての研究対象分野であった。性教育の方法論や内容に関して注目すべき反論もなされた。(Buston & Wight 2006; Mabray & Labauve 2002; Parish & Clayton 2007)。

性に関する研究は、教育は発達段階の早期に開始しなくてはならず、その最も適切な時期は子どもがハイリスク行動を行う直前、つまり早期青年期であると考えられていることを明らかにしている(Bearinger et al. 2007; He et al. 2004; Siegel et al. 2001)。さらに、中学・高校での適切で有益な性教育への要求は、安全な行動を促し、意図しない妊娠を防ぐと同時に感染を防ぐための重要な要素であると考えられている(Bleakley et al. 2006)。

現代の性教育は主に両親、友人、(ないしは近親)、マスメディアと学校によって分担されている(Ekstrand et al. 2005; Gruber & Grube 2000; Haggstron et al. 2002)。両親は性に関する最も重要な情報の源であり、その性に対する考え方は青年期の青少年の性的指向に大きな影響を与える。親と十代の青少年の間での性問題についての会話は予防的要素であり、青少年の性行動に良い影響を与えると考えられている(Macodowall et al. 2006; Somers & Surmann 2004; Zhang et al. 2007)。

それでも、学校は体系的な性教育の適切な場所になりうる、またそうなるべきであろう。さらに、青少年は、学校教育や教師を性と避妊に関する情報を得るための最高の場所としてむしろ好んでいると指摘する多くの研究もある。イギリスでは、多くの先生が学校で性教育を行うが、性教育はカリキュラムの必修科目ではない。生徒は自分が信頼し、気恥ずかしさを感じない教師からの性教育を望む(Graham et al. 2002; Kirby 2002; Somers & Surmann 2004)。

青少年の性的健康を推進する性教育を含んだ学校プログラムの重要性とその効果を明らかにした論文は多くの国で発表されている(Evans 2000; Duberstein Lindberg et al. 2006)。

残念ながら、ギリシャにおいては、教育制度の中に性教育を取り入れる系統的な試みは未だなされていない。ギリシャの学校では、他の教科(生物、心理学、神学など)の中でこの問題が部分的に取り上げられている。しかしながら、これらの教科は、性教育の全体を独立させた教科というよりは、どちらかという生殖システムあるいは関係性の問題に焦点だけあてられているだけである(Menmuir & Kakavoulis 1999)。

世界各国で、多くの十代の性行動は衝撃的で、計画性がなく、時には不本意に行われると考えられている。青少年はしばしばその結果や妊娠の可能性を全く考えずに性行動を行ってしまう(Herman 2007)。Steinberg(2002)は十代のリスク行動は概して非合理的なものではあるが、それは誤った意志決定ではなく、意志決定の欠如であるという独自の論文を発表している(Steinberg 2002)。

性教育プログラムの発展と実施は多元的なアプローチを必要とし、性的健康に貢献することのできる社会福祉も含まれる。これによってその提供者と子どもたちの間の信頼と信任を育むことを助けると同時に、効果的な助言ができるようにすることができる(Mabray & Labauve 2002; Tait 2000)。この実現のためには、十分に訓練を受けた教育者や専門看護師が必要とされる。これによって青

少年が健全な性への態度を身につけ、ハイリスクな性行動を避けるように援助する手段になるであろう(Berkaert 2002; Evans 2000; Savaser 2003)。

### Ⅲ-3.方法

#### ①目的

今回の横断的な研究は、ギリシャの生徒の性教育に関する知識と情報源を検討することを意図していた。本研究の主要目的は、(a)人間の生殖システムに関する解剖学及び生物学に対しての生徒の知識を評価すること、(b)性的な生活と性殖についての情報源を特定することにあつた。青少年の性衝動、性行動の抑制と自己規制、それと同時に、避妊具の使用、中絶、性病などについて調査された。性別、年齢、社会経済的様態、親の教育水準や高校の種類などの統計学的データの影響も検討された。

#### ②サンプル

調査は2006年9月から2007年7月に行った。二つの学校の種類(普通ないしは、技術系)、参加者の年齢(レベル1:16~17才、レベル2:18~19才、レベル3:20~21才)を代表する群における二段階クラスター・サンプリングデザインを決定した。第一のサンプリング単位は学校の種類(普通ないしは技術系)を想定し、第二のサンプリング単位は学級であると考えた。各学級が要素(生徒)群を代表した。3つの変数の影響を求める単純無作為サンプルを使用するために必要な生徒を計算する必要があつた。2006年にアッテカに住む高校生数は227,848人であり、184,858人が392の普通高校に、42,990人が91の技術系高校に通っていた。必要とされる研究の最小サンプル数として、95%レベルの信頼性と、80%の検出力と、±3%の統計力と正確性で想定された生徒数は1,000人であつた。

#### ③測定手段

本研究の目的のために、ある特別の質問紙を開発した。この手段の内容妥当性はギリシャと国際的研究の広範なレビューを基準にした(Bakaery 2002; Haggstorm-Nordin et al. 2002; Tait 2000)。この測定手段は16の質問項目で構成されている。その質問紙は、生徒の解剖学や性器の機能に関する知識、セクシュアリティに関する情報源、性衝動の自己規制能力、避妊と性感染症に関連して作成された。サンプルの属性(子どもの年齢、親の年齢、子どもの数、親の学歴と仕事)を記録した。信頼性と質問紙の明瞭性を決定するために、20のサンプルで予備的調査を行った。

#### ④手続き

国立教育庁の教育学研究所の認定を受け、学校長に個別に伝達、各学校の訪問日程を作成した。研究者が研究目的を関係者に説明し、生徒には質問紙は無記名で、その参加は自由である旨知らせてあつた。研究者がそこにいることの主たる役割は、(a)子どもの質問に答えること、(b)生徒がその質問紙を埋めることに集中できるように監督すること、(c)プライバシーの保護とその手続きの匿名性を保証するためであつた。

## ⑤データ分析

データ分析は、社会学統計 11 (SPSS Inc, Chicago, IL, USA) を使用した。連続データは平均値として表す(±標準偏差)と同時にカテゴリーと二分変数を群の割合で表した。

平均値と頻度を予測するために、記述統計法を用いた。通常のデータは、マン・ホイットニー検定とクルスカル・ワリス検定で分析し適正であった。P 値の両側検定は 0.05 未満であり、統計的に有意であった。

## Ⅲ-4. 研究知見

本研究の母集団は、アッテカの 10 の高校(8 つの普通高校と 2 つの技術系高校)と 4 つの医学校に通う 1,006 名の生徒で構成されていた。何名かの生徒(6.95%)の回答は除外されたか、質問紙が白紙ないしは不完全で回収されたものであった。その結果、936 の質問紙(回答率 93.05%)を分析した。これらの生徒の内、696 名(74.4%)(男子 370 名、女子 326 名)は普通高校に通い、74 名(男子 68 名、女子 6 名)は技術系高校に通い、166 名(女子 143 名、男子 23 名)は医学校に通っていた。582 名の女子(62.1%)と 354 名(37.9%)の男子は  $17.8 \pm 1.5$  才の平均年齢であった。多くの生徒の父親(37%)は民間会社に勤務し、多くの母親(38.9%)は専業主婦であった。両親の学歴に関しては、多くは高卒(父親の 33.7%、母親の 42.2%)であった。

データ分析では、人間の生殖システムの解剖学・生物学的知識に関して、ほとんど知らない(1.3–4.5%)、ないしは、全く知らない(0.8–1.8%)というのは非常に低かったのに比べ、大多数は十分に知識があるという結果が示された(表 S1)。性別、年齢、学校の種類と解剖学的知識に対するレベルの相関に関しては、男子生徒の方が女子生徒よりも人間の生殖システムの解剖学的、生物学的知識に長けている( $P < 0.001$ )。さらに、年長の学生(20 才以上)は年少の生徒よりも知識が豊富であった。最後に医学校の生徒は他の生徒に比べ解剖学の知識が豊富であった( $P < 0.001$ )。生殖システムと性別、年齢、両親の学歴レベルとの相関に関しては、女子生徒、特に技術系高校に通う女子生徒の方が知識豊富であるという知見もあった。( $P < 0.001$ )。

中等教育を受けた母親の方が高等教育(技術系高等学校ないし大卒)を受けた母親よりも多くの情報を与えているという知見もあった。( $P < 0.001$ )。

生殖問題についての主たる情報源は友人(29.1%)と両親(24%)で、一方、学校は 14.3%であると報告された。154 人(16.4%)の生徒は主な情報源は性教育の専門家であったと回答した(表 S2)。さらに、生徒達は性教育の専門家からの情報が最も適切で(65.6%)であると答え、その後、学校(39.1%)、両親(33.1%)、友人(27.7%)が続いた(表 S3)。

生徒の回答によると、彼らは自分の性衝動を抑制することができる(51.1%)。大半の生徒は意図しない妊娠を防ぐために様々な避妊方法を用いていると報告された(61.2%)。さらに、26.2%の生徒は禁欲を好むと答え、その内の 7.7%は婚前性交には反対であると報告された。また、いかなる避妊手段も用いないと主張する生徒もいた(11.9%)。「どれくらい避妊方法を十分に知っていると思いますか。」という質問にたいして、22.2%の生徒が「ほとんど、ないしは、全く知識がない。」と回答し、40%は全く質問に答えなかった。意図しない妊娠の場合も、67.1%の生徒が中絶は避けるべきで、48.8%はそれが重大な健康問題を引き起こすからと回答し、26.7%がそれは許容できる道徳的、倫理的行為ではないとも回答した。中絶を避妊手段の一つであるとする生徒は、倫理的制約は何もなく

(24.1%)、合併症も治療できる(19.6%)と回答した。表4Sにはさらなる性教育に対しての生徒の関心領域を示した。

### Ⅲ-5.考察

データ分析では、サンプルのかなりの率、30.2%から 63.7%の範囲で、生殖システムの構造と機能に関しての基本的な知識を有していることが示された。男子生徒の方が生殖システムに関しての知識が多く、女子生徒の方が生殖と避妊に関しての知識を多く有していた。Tavakol(2003)は、イランでの十代の女性の生殖に関する健康問題に対する知識の研究で同様の知見を発表している。さらに 20 才以上の学生は、医学生と同様に性知識は豊富であった。なぜなら、年長の学生はより多くの性経験を積んでいるであろうし、医学生は他の学部(医学部)の学生に比べて解剖学や生物学の授業に出ているであろうことから、これは十分に予測できた結果であった。先行研究もこの知見を指示している(Macdonald et al. 2006; Savaser 2003)。

データ分析では、中等教育を受けた母親は高等教育(技術系専門学校や大卒)を受けた母親と比較してより多くの情報を子どもに提供していることを明らかにした。この知見は一見矛盾しているように思えるが、これは彼女らの違った役割という観点から説明できる(Bearinger et al. 2007)。中等教育を受けた大半の母親は専業主婦である。一方で高等教育を受けた母親は自分の仕事や会社のために過ごす時間が長い職業を持つ女性であった。性に関する親と十代の子どもとの会話は思春期の健康と性的な生活に最も貢献するものと長い間考えられてきている。父親よりも母親の方が子どもと性の話題を話すという研究もある。また、母親は息子よりも娘と性に関する問題を話している(Ackard & Ntainer 2001; Dilorio et al. 2005; Marcell et al. 2007)。

研究の主題である次の項目が情報源の主なものとして報告された。友人(29.1%)、両親(24.0%)、テレビ(18.5%)、性教育専門家(16.4%)、学校(14.3%)、そして兄弟(11.7%)。Somers と Surmann(2004)は、欧米の青少年の性教育の情報源の傾向という研究で同様の知見を報告している。生徒の感覚として、両親(23.9~36.3%)、友人(15.5~20.9%)、そして学校(26.4~26.8%)が最も好まれる性教育の情報源であった。一方で、彼らの研究のサンプルでは、メディア(1.4~3.3%)と兄弟(2.1~2.2%)はあまり重要な情報源ではないと報告されている。

我々の知見によると、ギリシャでは適切な性教育が家族からも学校からも十分には行われていないことを示している。かつて、ギリシャの母親は子どもの成長と教育に責任を持っていた。今日、この伝統的モデルは変わり、多くのギリシャの母親が彼女らの職業機会に関心を向けるようになってきている。そのため、小さい子どもや十代の若者は性教育の主な情報源として、友人やメディア、本、インターネットなどを使う傾向にある。しばしば、そのような情報源は信頼できないものである。友達グループの影響は親の愛情の低下を強化してしまいがちである(Somers & Sumann 2004)。

我々の知見は、スウェーデンの高校で行ったふたつの同じような研究に部分的に合致している。これらの研究では、性と性差に関する知識の最も重要な情報源は青少年クリニックと並んで、メディア(新聞)と友人であり、父親は最も重要でなかったとしている(Ekstrand et al. 2005; Haggstrom Nordin et al. 2002)。さらに、Kakavonlis(2001)は、家族や友人、学校に次いで、印刷物ないしは電子情報が最も好まれる性教育の情報源であると結論づけている(Gruber & Grube 2000; Kakavoulis 2001)。

我々は、青少年は性問題について教えてもらうのは性教育専門家(65.5%)、学校の教育者(39.1%)と家族(33.1%)を好むことを見出した。この知見はギリシャの生徒が専門家と討論を望んでいると同様に、性的話題に関する適切で有効な情報を必要としていることを反映している。このような必要性を認識し、家族や学校による様々な教育手段を通じて、実現しなくてはならない(Buston & Wight 2006)。

性行動のコントロールに関する質問からデータ分析では、51.1%の生徒が自分の性衝動を十分にコントロールすることができるという報告を見出した。さらに、大多数(87.4%)は意図しない妊娠を防ぐための避妊手段を用いていると述べている。これらの知見は、思春期の若者が性衝動のコントロールに欠けると述べているという米国とオランダで実施された同様の研究の結果と対立している。特徴的なのは、この研究者はその知見を劇的な現象であると述べていることである(Schalet 2000)。さらに、この10年間で、世界的に意図しない妊娠の数が劇的に増加してきており、避妊や、禁欲、自己抑制に関する特別な教育プログラムの法的整備が行われてきている(Dehne & Riedner 2005; Schalet 2000)。反対に、ドイツの思春期の若者はもっとも保守的で、性行動は若者の間での思慮深く真摯な感覚を測っている(Schmidt et al. 1994; Starke & Visser 1994)。

さらなる情報が欲しいとする領域に関する答えは、主に性感染症の予防(48.2%)と対人関係(37.3%)に、焦点が当てられていた。この知見は青少年にとって、しっかり組み立てられ、威厳のある性情報の必要性を改めて強調し、性教育プログラムの欠如を示唆している(Bearing et al. 2007)。性教育プログラムは正確で包括的な情報を提供し、相手との関係をとるもつ性行動の交渉スキルも身につけなくてはならない(Panchaud et al. 2000)。

生徒はHIV/AIDS時代に生きているので、性感染症に恐れ、心配している。私たちのデータ分析は、また、年齢と、学校の種類や専門、両親の教育水準、居住地などのような人口動態的属性は、性教育プログラムを開発・実施する過程の理論上を説明されなければならない重要な指標であることを示した。Somers と Surmann(2004)は、セクシュアリティの教育学習は、宗教的価値観や教材、社会・歴史的文脈、性差の受け止め方、ジェンダーなどの影響を受ける可能性があると報告した。効果的なアプローチは多面的であるということを心にとめておきながら、各年齢群の発達課題と社会的文脈に適合しなくてはならない(Bearing et al. 2007; Kirby et al. 2006; Wellings et al. 2006)。

### Ⅲ-6.研究の限界

私たちは、ギリシャの十代の青少年の性知識を評価し、彼らの情報源を調べようとした。そのため、研究の文脈はギリシャだけの一地域に偏っていた。さらに、使用したサンプルはアッテカ市学校における教育場面に限定されていた。それゆえ、これはギリシャの全ての生徒を代表しているものではないと思われる。

### Ⅲ-7.看護師の仕事との関連

私たちの研究はギリシャの子どもと青少年に対する適切な性教育の必要性を反映している。その結果から、我々は、学校看護師が相応の教育を受けた後、心理学や性感染症、避妊、倫理などの専門家と協同しながら、学校における性教育の一端を担うことがよいということを強く示唆する。今後の研究は、学校看護師の重要性を強調するために、学校看護師のいる学校といない学校にお

ける生徒の性情報レベルを比較するであろう。

### Ⅲ-8.結論

ギリシャの青少年は、恋愛関係を形成することや、彼らの性的アイデンティティを発達させるようなセクシュアリティに関連する多くの発達課題に直面している。一般に、生徒の性的話題に関する知識のレベルは十分ではなく、そのため、ギリシャの学校では性教育専門家や性教育の特別授業の必要性がある。両親の教育水準は生徒の性教育に関連している。誠実で開かれている会話は（児童期、前思春期、青年期を通じて）は青少年が性的に健全な大人に成熟することを助けることができる。

青少年の性的な生活に対する学校、友人、そして両親の支援の重要性は本研究の結果によって明らかにされた。情報を持つ両親、専門的な教育を受けたヘルスケア提供者、そして、学校でさえも、十代の青少年と親密つながりのある関係を形成し、健全なセクシュアリティの発達についての年齢相応のねらいと計画を考案することで青少年の発達課題を支援することができる。この研究は、また、学校の性教育や家族の教育の結果としての予防にも焦点を当てた。しかるべき教育を受けた学校看護師他の専門家（他職者）が学校での性教育の一端を担うことであろう。性的なことがらに対するギリシャの学生の性的な態度は自由なものとして特徴づけられるけれども、彼らの生殖と避妊の知識は十分ではない。

それゆえ、ギリシャの若者にとって、効果的で信頼できる、生殖に関する保健サービスを提供することが必要である。

## Ⅳ.抄読を終えて

### Ⅳ-1.本文献の長所と短所

#### 長所

- ◎ 1 地域の横断調査としては、サンプル数が多く、各種高校を対象としており、この地域の高校生の傾向は把握できるものとなっている。
- ◎ 普通高校と医学校の比較が行われており、私の関心に合っていた。

#### 短所

- ◎ 性知識の質問内容の全項目が示されていなかった。
- ◎ 独自の開発した質問内容 16 項目中 7 項目のみであるため詳細がわからない。
- ◎ 私の関心事項である教員は対象とされていなかったのは残念である。
- ◎ 医学生生の年齢だけではなく、専攻分野もほしい情報であった。

### Ⅳ-2.参考になった部分と今後の課題について

- ・調査に信憑性を持たせるためには、比較対象校が必要である。今後の調査で生かしたい。
  - ・質問紙調査を行う前に、先行研究や予備調査などを行い、確実な調査枠組みの下に質問項目を作成することの重要性を再認識した。
- これらのことを、修士論文作成に役立てたい。

表1 生殖器官に関する解剖学・生理学の知識 N=936

| 知識項目    | 知識の程度 | 全く知らない    | ほとんど知らない  | 普通          | よく知ってる      | 非常によく知っている  |
|---------|-------|-----------|-----------|-------------|-------------|-------------|
| 月経周期    |       | 17 (1.8%) | 37 (4.0%) | 110 (11.7%) | 280 (27.8%) | 512 (54.7%) |
| 射精      |       | 17 (1.8%) | 29 (3.1%) | 75 (8.1%)   | 219 (23.4%) | 598 (63.7%) |
| 卵子とその生成 |       | 12 (1.3%) | 29 (3.1%) | 108 (11.3%) | 280 (27.8%) | 528 (56.5%) |
| 精子とその生成 |       | 8 (0.8%)  | 20 (2.1%) | 78 (8.1%)   | 288 (30.9%) | 544 (58.1%) |
| 避妊と出産   |       | 11 (1.2%) | 12 (1.3%) | 58 (6.2%)   | 258 (27.6%) | 597 (63.7%) |
| 異性の生殖器官 |       | 8 (0.8%)  | 42 (4.5%) | 215 (23.0%) | 388 (41.5%) | 283 (30.2%) |
| 自身の生殖器官 |       | 16 (1.7%) | 12 (1.3%) | 58 (6.2%)   | 383 (38.8%) | 487 (52.0%) |

表2 生徒に関する情報源 N=936

| 情報源  | 情報の程度 | 全く情報がない     | 少し情報がある     | 多少情報がある     | かなり情報がある    | 大量の情報がある    |
|------|-------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 両親   |       | 150 (16.0%) | 149 (15.9%) | 186 (20.0%) | 228 (24.1%) | 225 (24.0%) |
| 兄弟   |       | 463 (49.5%) | 137 (14.6%) | 108 (11.5%) | 119 (12.7%) | 109 (11.7%) |
| 学校   |       | 256 (27.3%) | 197 (20.9%) | 171 (18.2%) | 180 (19.3%) | 134 (14.3%) |
| 友人   |       | 87 (9.3%)   | 126 (13.5%) | 179 (19.2%) | 271 (28.9%) | 273 (29.1%) |
| 印刷物  |       | 175 (18.7%) | 153 (16.3%) | 220 (23.5%) | 198 (21.2%) | 120 (12.8%) |
| テレビ  |       | 123 (13.1%) | 196 (21.0%) | 213 (22.8%) | 230 (24.6%) | 174 (18.5%) |
| 性専門家 |       | 280 (29.9%) | 183 (19.6%) | 158 (16.9%) | 161 (17.2%) | 154 (16.4%) |

表3 生徒が希望した性教育に関する情報源 N=936

| 情報源  | 希望の程度 | 全く希望しない     | たぶん希望しない    | どちらもある      | 多少希望する      | 明確に希望する     |
|------|-------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 両親   |       | 193 (20.6%) | 128 (13.7%) | 116 (12.4%) | 189 (20.2%) | 310 (33.1%) |
| 兄弟   |       | 312 (33.3%) | 149 (15.9%) | 128 (13.6%) | 182 (19.3%) | 184 (19.7%) |
| 学校   |       | 132 (14.1%) | 78 (8.2%)   | 130 (13.8%) | 232 (24.6%) | 366 (39.1%) |
| 友人   |       | 130 (13.9%) | 116 (12.4%) | 179 (19.1%) | 252 (26.9%) | 259 (27.7%) |
| 印刷物  |       | 158 (16.9%) | 124 (13.3%) | 161 (17.1%) | 202 (21.6%) | 301 (32.2%) |
| テレビ  |       | 165 (17.6%) | 125 (13.3%) | 169 (18.1%) | 198 (20.9%) | 281 (30.1%) |
| 性専門家 |       | 77 (8.2%)   | 49 (5.2%)   | 88 (9.2%)   | 138 (14.8%) | 614 (65.6%) |

表4 ギリシャの生徒が要する情報を問うた題材 N=936

|             | はい          | いいえ         |
|-------------|-------------|-------------|
| 生殖器官の解剖学的構造 | 237 (25.3%) | 699 (74.7%) |
| 生殖器官の衛生     | 291 (31.1%) | 645 (68.9%) |
| 生殖器官の機能     | 241 (25.7%) | 695 (74.3%) |
| 個人間の関係性     | 353 (37.7%) | 583 (62.3%) |
| 避妊          | 333 (35.6%) | 603 (64.4%) |
| 妊娠中絶        | 347 (37.1%) | 589 (62.9%) |
| 性感染症        | 451 (48.2%) | 485 (51.8%) |